

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2870801285		
法人名	医療法人 浩生会		
事業所名	舞子台グループホーム		
所在地	神戸市垂水区舞子台7丁目3-6 (電話) 078-783-2225		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年6月14日	評価確定日	平成19年8月21日

## 【情報提供票より】(平成19年5月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤	21人、非常勤 3人、常勤換算 22.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての 2~3階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	(有)(250,000 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円) 有りの場合償却の有無		有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,150 円			

### (4) 利用者の概要(5月17日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.5歳	最低	69歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	舞子台病院、田口歯科医院
---------	--------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR舞子駅より徒歩で15分ほど坂を登った高台の一角で病院や老人保健施設のある同一敷地内にグループホームがある。住宅街に接しており、近くに静かな公園があるが、マンションも次々と建設中である。近隣にはスーパーもあり生活を営むには利便性がある立地ではあるが、利用者が気軽に出かけたりするには坂道と車が今後の課題である。かつては介護職員の退職者が続き、変動が見られたが、今は落ち着きを取り戻し、利用者、家族、管理者、介護職員が一つになり、よりよいグループホームの運営に取り組む姿勢がうかがえた。地域との関わりは、地域の行事に参加する程度であるが、今後は、地域との交流や様々な場面で協力が得られるよう、さらなる取り組みが期待される。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価で出てきた課題では口腔ケアの実践など改善できたこともあり、また取り組みを残したままのものもある。職場も落ち着いてきた現状で、一歩ごとではあるが理念に沿って介護を行なうようにしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は全員で取り組み、ホームの理念を基本とし、理解し支援することが、職員の受取り方で差があることがわかり、認識できた事が、大きな前進の一歩としてとらえている。これからも評価の項目を勉強会で理解しあうことを目標にしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議で利用者の暮らしぶりを具体的に伝え、家族から意見や苦情が寄せられれば検討している。地域の方からはまだまだあまり意見が聞かれていない状況である。家族や地域の方に、グループホームをより深く理解していただくため、「たより」の発行を予定しているため、実現が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族会があるため、運営推進会議の際や、家族会をとおして意見や要望が出されているので、出された意見について検討している。家族への利用者の情報提供は家族がホームに訪問した際に状況を報告することが中心である。今後発行予定のホームの「たより」送付の際に個々の状況を記した文書を同封するなど、個別に利用者家族が相談を行ないやすいようにしていくことが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域の行事や集会に参加しているが、日常生活の中において地域との関係性はまだ見えにくい。ホームや利用者が地域の一員として交流と協力をどのように進めるのか、家族の会の方々の意見も参考にして、輪を広げていくことが期待される。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念のなかには地域との関わり方は明記されていない。しかし、運営推進委員会を7回開催し、理念について話し合っている。		地域密着型サービスとして、今後地域との関係をより密にしていくとともに、理念についても職員全員が実践に活かせるものとして検討し作り上げていくことが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会、ミーティングを行い理念について職員、管理者とも理解に努めているが、全ての職員で共有できているとはいえない。		今後も勉強会を定期的に行い、職員、管理者とも理念について考え、理念を基本とした利用者への支援について徹底することが期待される。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者、家族と相談して、地域の行事や集会に参加しているが、日常生活の中において地域との関係性はまだ見えにくい。		ホームや利用者が地域の一員として交流と協力をどのように進めるのか、家族の会の方々の意見も参考にして、輪を広げていくことが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員とも意識の向上に役立った。できていないところも分かり、評価結果を何時でも手にとって見れるようにしてサービスの質の向上に努めている。自己評価は全員で取り組み、ホームの理念を基本として理解し支援することが、職員の受け取り方で差があることがわかり、それを認識できたことが、大きな前進の一步としてとらえている。		これからも評価の項目を勉強会で理解しあうことを目標にしているので、取り組みが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は2ヶ月に1回開催している。会議で利用者の暮らしぶりを具体的に伝え、家族から意見や苦情が寄せられれば検討している。地域の方からはまだあまり意見が聞かれていない状況である。</p>		<p>家族や地域の方に、グループホームをより深く理解していただくため、「たより」の発行を予定している。今後の実現とともに、地域からの意見が積極的に出されるように働きかけることが期待される。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市のあんしんすこやかセンターと協力して、民生委員の認知症の理解のためにホームの見学をしている。運営推進会議以外では、ホーム内のサービス向上にむけては、市との連携にはまだ具体的に取り組んでいない。</p>		<p>市への働きかけを続け、ともにサービスの質向上にむけて取り組むことが期待される。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問があったときに、日常の生活や体調を話し、相談にも積極的に働きかけているが、訪問の少ない家族へは、電話による体調の変化等の報告にとどまっている。</p>		<p>今後、「たより」を発行予定なので、送付時に書面で様子を伝えたり、積極的に働きかけて普段から個別に相談などが行ないやすいようにすることが期待される。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議で家族の意見、要望を聴き、家族の会を通しても意見が聞かれるので内容を検討している。</p>		<p>毎回同じ問題が家族より出されているので、ホームとしてどうあるべきか再度検討することが期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>全職員が利用者を理解するために、個人ファイルを細かく作成し、職員が一定期間(6か月)経つと順次ユニットを変り、利用者をどの職員も支援できる体制を取っている。退職があった時は引継ぎ期間が短い場合もある。</p>		<p>利用者に対するダメージを最小限にするためにも、支援内容、職員間の連携の取り方や利用者との関係など、引継ぎ期間を十分にとることが望まれる。</p>


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は休日を利用して外部の研修に参加しているが、全員の参加とはなっていない。受講してきた内容を資料を回覧することで他の職員に伝えている。		資料等を回覧するのみではなく発表の場を作るなど、職員全員(パートも含む)が、共通理解できるような取り組みが望まれる。また認知症介護実践研修なども計画的に受講していくことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人の他の事業所との勉強会に参加したり、看護師や介護支援専門員等の合同研修に参加している。しかし市内や県内のグループホームとは交流をもてていない。		グループホームとしての、職員の育成や事業の運営等の情報収集のために、他のホームとの交流や、事業者連絡会等への加入も検討することが望まれる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から入居の利用者が多いこともあり、家庭への事前訪問することは少ない。体験入居等はしていないが、入居後は家族にしばらく食事介助等の訪問を依頼することもある。		病院からの入居であっても、利用者の環境変化にともなう影響軽減のために、体験入居やホームで1日過ごすようにするなどの検討が望まれる。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームのなかで、利用者ごとに役割や楽しみごとを支援している。カーテンを開ける、戸締りをする等、その人ができたとき、共に喜び合いさりげなく支援している。利用者の体調、顔色などからも今の気持ちを汲み取るようにして、話を受容し、教えていただく姿勢で関係を築いている。調理方法について聴いている態度からも利用者学ぶという姿勢が伺えた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者、家族の思い、意向を入居時にアセスメントシートに記入し、その後日々の暮らしのなかで声かけをして、把握する取り組みがされている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	月に1回ミーティングを行い、職員間で意見交換をしている。介護の計画は職員と介護支援専門員がミーティングの時の記録を基に話し合って計画を立てている。一人ひとりの特徴に応じて介護計画が立てられ、職員も理解して支援にあたっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	およそ3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しに取り組んでいる。月に1回のミーティングでも話し合っている。発熱などによる計画の変更も情報を提供して変えている。介護の支援方法が変わるとき、職員間の連携方法として、連絡ノート、ファイル、口頭による説明をし、全員が確認し引き継いでいる。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	医療連携体制により気軽に相談できる看護師や医療機関を確保している。毎日1、2時間は訪問看護が来て体調の確認をしている。自主サービスとして、利用者個々の外出と遠方への散歩の迎えのとき等、車での送迎をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院の各科の医師がかかりつけ医になっている。通院は家族が同行をする事になっているが、歯科医は往診を依頼している。</p>		<p>月1回の通院介助について、家族からの要望が多いので、お互いに納得できるように、話し合いを重ねる取り組みが望まれる。</p>
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末ケアについて、原則としてホームで取り組む方針であることを同意書で説明をしている。今までにも2名の終末ケアを行っており、医師との連携、家族との連携もとっている。</p>		<p>新任の職員も多いので、終末ケアに向けて職員体制の検討や、医師との連携が今後とも継続することが期待される。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>特に排泄時の声かけは、さりげなく側で小さい声で声かけをしている。個人のファイルにその人のケアの方法が記録され、プライバシーを守っている。個人ファイルは事務所の戸棚で、鍵のかかる場所にある。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝食の時間もきまってはいるが、利用者の動きを見ながら進めている。起床時間の遅い方は、部屋まで行き声をかけて、ゆっくりとその人に合わせて起床支援している。月に1回一人でお茶を飲みに出す方がおり、帰りは車を頼み迎えに行き、これまでの生活習慣を尊重する支援をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回昼食を利用者と相談し、買い物、調理をしている。他の日は併設施設より調理済みの料理が届き、盛り付けを利用者と職員で行なっている。		食事は希望の表出や五感の刺激にもつながるため、食事の1品など可能なものから一緒に作る機会を増やすことが期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間が午後1時30分から午後8時までで、利用者が好きな時に入れるようにしている。どの場面でどう介助するか、計画表や個人ファイルに記入して利用者一人ひとりにあった入浴の支援をしている。入浴をしたがらない方にも時間を気にせず、しばらくしてからさりげなくすすめて入浴につなげるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者との関わりの中で知りえた情報は個別ファイルに記載し、利用者個々の好みや状況に応じて役割を活かせるようにしている。利用者自身の居室の掃除、洗濯物の取り入れ、洗濯物たたみ、花の水やり、新聞の取り入れ、食器を拭く、テーブルを拭く等役割がある。		さらに利用者の個別の楽しみを把握し、それに応じた支援の実施が期待される。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事的な外出は年2回計画し、家族、職員が同行している。屋上で外気浴を行なうようにしているが、日常的な外出は歩行が一人で行ける人を対象にしており、特定の人のみとなっている。		一人で歩行が困難な利用者も、一人ひとりに合わせた外出支援の取り組みが望まれる。また、外出支援の様子を家族に情報提供すれば家族の安心につながるのではないかと。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜のみかけている。玄関へ行く途中にセンサーがあり、人の出入りがわかるようになっているので、玄関先で職員がそれとなく対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>日中に年2回消防署の協力を得て防災訓練を行っており、最近では今年3月に訓練をしている。利用者はベルの音に敏感で夜まで不安感が続いたが落ち着けるようにケアしながら取り組んでいる。地域の方の協力や参加はない。</p>		<p>地域の警察署や消防署等と連携したり、運営推進会議で働きかけるなどして、地域の人に協力を得られるような体制づくりが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者ごとに食事量、水分摂取量を記録している。併設施設の栄養士が、カロリー計算し、栄養バランスをチェックしている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は、ゆったりとして、季節の花や昔のミシン、黒い電話機等が置かれ居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテン、エアコン、照明器具はホームで用意したものだが、その他のものは持ち込んでもらっている。部屋が利用者自身の持ち物で一杯の方から少ない方まであり、それぞれの住む人の個性が見えるようにしている。</p>		

 は、重点項目。